

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第414号 平成24年10月16日

国語に関する世論調査

文化庁が行った「国語に関する世論調査」の結果、国民の漢字を書く力が衰えていることが浮き彫りになりました。

この世論調査は、全国の16歳以上の男女を対象に毎年行っているもので、調査対象総数3,485人に対して、有効回収数は2,104人(60.4%)でした。

文化庁のまとめによると、

- (1) 日常の言葉遣いや話し方、文章の書き方など、言葉や言葉の使い方について、どの程度関心があるかを尋ねたところ、「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」を選んだ人を合わせた「関心がある」と答えた人は81.1%と非常に高い結果となっています。

これに対して、どのような点に関心があるか聞いた(選択肢の中から3つまで選択)ところ、「日常の言葉遣いや話し方(72.8%)」、「敬語の使い方(65.5%)」の割合が他と比べて高くなっています。

言葉遣いにも、不易と流行がある筈であり、そうした中、言葉遣いの乱れに対する関心が高い事は大変良い事だと思います。

- (2) 言葉や言葉の使い方に関して、困っている事や気になっている事があるかを尋ねたところ、「流行語や新しい言葉の意味が分からないことがある(41.8%)」、「外来語・外国語の意味が分からないことがある(39.1%)」が、いずれも約4割となっており、続いて「辞書を引かなければ書けない漢字が沢山ある(33.7%)」が続いています。

流行りの言葉についていけないのはともかく、私も漢字を忘れていくという点では深刻で、辞書を手元に置いておかなければ不安で仕方ありません。これからは、手紙を書く時は出来るだけ手書きにしなければと思っているところです。

- (3) 国語に関して国に期待するのはどんなことかという質問に対しては、「家庭や社会で正しい言葉遣いが行われるようにする(38.8%)」、「学校での国語の教育をより充実させる(36.8%)」、「言葉の意味・由来や国語の伝統が受け継がれるようにする(31.9%)」がいずれも3割を超えています。

また、パソコンや携帯メールが日常化している中で、「漢字を正確に書く力が衰えた」と認識している人が非常に増えているようです。

国語教育に対する関心が高まって来ていると感じますが、子ども達の国語力低下は学校だけの責任ではありません。家庭における教育もまた、学校教育に劣らず重要です。

特に、子ども達が安易にパソコンや携帯電話を使ってコミュニケーションを取るという事は、子ども達の言語能力の発達という観点からはいささか心配になります。手書きによる漢字の習得の重要性を、各学校も、また、保護者も再認識すべきだと思います。

今回は、文化庁による「国語に関する世論調査」の結果について、その一部を見て来ましたが、便利さを追求する中で国民の国語力が低下していく事は看過できません。

国においても、各教育委員会、学校においても、国語教育の重要性を認識し、再構築を図る必要があると強く感じます。(塾頭：吉田 洋一)